

沼田市の財政力指数は12市最下位

1位太田市は1.03 沼田市は0.52

10日から15日まで行われた2020年度決算審査で井之川博幸委員が質疑した内容について、特徴ある点について報告いたします。

まず財政問題ですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大がすすみ、感染拡大対策と給付金支給や自粛による関係事業者向けの経済対策などで、国から特別定額給付金約47億円や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金約8億円、教育コンピューターなど学校施設環境改善交付金約5億円など、特別に当年度に多額の国庫補助金による事業があったため、財政規模が前年度に比べ20数億円も増加しました。これらのコロナ対策以外は、次年度につづく可能性は低いと思われます。

しかし、前年度に比べ基準財政需要額が3億6千万円ほど増加していますが、これは次年度以降も続きます。社会福祉費の増加と保育の3歳以上無料化及び会計年度職員の期末手当支給が始まった影響が大きいということです。

財政力の余裕度をみる財政力指数については、残念ながら県内12市中最下位の0.522で、1位の太田市の半分です。11位は桐生市で0.57です。財政の余裕がなく、厳しい財政状況で、市民の要望には「お金がない」とよく言われますが、今回明らかになったのは、コロナ禍でいろいろな事業が中止になりましたので、市が直接かかっている事業費は減額になり、市の金庫にお金は戻りました。

団体に交付している補助金は使わなくても、なぜ市に戻らないのか？

しかし、各種団体に補助金として支出されているお金は、その団体がコロナ禍で事業を実施できなくても補助金として支出されているということが明らかになりました。事業ができなくてお金が残っても市に返還しない仕組みになっていてその団体のお金になっています。今回、ある団体の活動報告が事務概要書で公表されていたのでわかったことですが、市民の貴重な税金がこのような「ずさんな」取り扱いになって(右中段につづく)



井之川博幸市議

コロナ対策の補正予算が成立

9月議会最終日の22日、生活困窮世帯特別支援事業200万円、沼田マルシェオンライン業務委託料1,596万円、法人30万円・個人事業者15万円支給の事業継続支援金、電子通貨システム負担料支援の業務委託料2,160万円、公共交通のバス会社に新型コロナウイルス感染防止対策支援金103万円、合計7,059万円の補正予算が全会一致で採択されました。

市ではできるだけ早く実施していきたいとのことです。

新教育委員に永井和恵さんが就任

下発知町の永井和恵さんが提案され、全会一致で可決されました。

(左下からのつづき)いて、補助金を支給しているほとんどの団体の運営は、このようになっているのではないかと思います。今後も沼田市の厳しい財政の原因はどこにあるのか調査を続けていきたいと思っています。

感染はおさまりつつあるも死亡発生

利根沼田管内の新規感染者(前回報告以降)

月日	年齢	性	職業	症状
9/15	70代	女	無職	咳
	50代	女	無職	
/19	70代	男		死亡後陽性判明
/20	70代	男	会社員	なし
/21	30未	男	会社員	発熱、関節痛、倦怠感
/22	60代	女	無職	痰



まだまだ油断は禁物です。死亡者が発生しました。

2021年9月26日 No.1033

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料